

2013（平成 25）年度後期 DUO リーグ会議②議事録

【日 時】 2013（平成 25）年 2 月 24 日（日） 17：00～19：00

【場 所】 筑波大学附属高校会議室

【出 席】（代表者名。下線は遅刻）

都小石川（長山）、昭和一（永井）、三菱養和（杉尾）、京華（小金丸）、都向丘（末吉）、筑波大附（中塚）、学習院（玉生）、豊南（小寺）、本郷（都丸→岩野）、城西（中川）、豊島学院（早川）、郁文館（井上）、駒込学園（宮坂）、巣鴨（山中）、立教池袋（橋本）、獨協（神宮司）、都豊島（丹羽）、淑徳巣鴨（室橋）、都竹早（蓑田）、日大豊山（亀井）、都文京（松田）、都足立（安藤）、都江北（蓑輪）、足立学園（伊藤）、都荒川商業（中野）、中大高（加藤）、文京区中学生選抜（武藤）、FC 西巣鴨 03（宮）

【オブザーバー：選手】

西嶋・香取・間瀬・金山・鈴木（筑波大附）、瀧本・市川（城西）、清水（都江北）

【オブザーバー：一般】

稲垣（文中選）、馬場（巣鴨）、栗原（東京リゾ&スポ）、土谷・佐藤（リサイクルプロジェクト）、河野（アクオレ）、栗山（都足立西）、日高（都千早）、三ツ矢（事務局）

【議事録作成】三ツ矢（事務局）&中塚確認・修正

【議 題】

I. 2012 年度事業報告および決算

II. DUO リーグの事業-2013 年度の事業の全体像と準備

1. 前期リーグ
2. 後期イベント
3. その他の事業（リーグ戦を支える事業／豊かなスポーツ観を育む事業など）

III. DUO リーグの会員と組織

1. リーグ規約と加盟。登録＝メンバーシップについて
2. 各事業への参加＝参加手続きとプレー代
3. リーグ運営組織

IV. 今後の進め方

 <DUO リーグ会議ダイジェスト（決定事項を中心に。詳細は下記参照。）>

◆2 部チャンピオンシップ結果

優勝：都豊島 B

準優勝：R.本郷

3 位：豊南

◆2 部 MVP：細川森（都豊島 B）

◆2013 年度から 2014 年度への地区トップリーグの昇格チームと試合日程について

①2013 年度から 2014 年度についてのみ、地区トップリーグへの昇格は 2 チーム

②リーグ戦は 7 月いっぱい、順位決定戦は高校選手権地区予選前まで、地区トップリーグへの昇格を争うプレーオフは地区予選後に行うこととする

◆以下の 3 チームの前期リーグ参加を承認

- ・都立足立西高校
- ・都立千早高校
- ・G 本郷

- ◆2013年度は「個人登録費」を改め「プログラム代」とする。金額は見通しが立った段階でプログラム担当が連絡
- ◆2013年度において、クラブ加盟費 5,000 円（通年）、チーム参加費 20,000 円（前期）と決定参加費 20,000 円のなかに、プログラム代 5 冊分の代金を含める
- ◆後期の内容等について、今後は理事会で、理事会設置までは将来構想委員会で議論を進める
- ◆チームプロフィール、プログラム必要冊数、基礎調査の提出は 3 月 9 日（土）まで
- ◆メーリングリストは、全チーム情報共有用（主に試合結果）と、加盟クラブ情報共有用（付帯行事情報等）の 2 つを使用する体制を整えるよう、話を進める
- ◆2 部リーグの昇格チーム決定方法は、理事会（将来構想委員会）に一任
リーグ戦開始前までに決定
- ◆2 部リーグ日程会議
日時：3 月 6 日（水）18:00～
場所：筑波大附

議題 I . 2012 年度事業報告および決算

玉生：前回の会議のあと、2 部のチャンピオンシップが開かれました。メーリングリストで結果は報告されましたが、2 部優勝は都豊島 B、準優勝は R.本郷、3 位が豊南となっております。これをもって、2012 年度後期リーグがすべて終了しました。

→2 部優勝：都豊島 B

準優勝：R.本郷

3 位：豊南

中塚：それに伴い、保留となっていた 2 部 MVP は都豊島 B の細川森君に決定しました。

→2 部 MVP：細川森

◆各事業報告

中塚：今年度中に今後予定されている事業としては、審判講習会があります。審判講習会についてアナウンスはありますか。

中川：嶋野から伝言です。3 月 24 日の審判講習会は募集人数を越えているので、締め切りました。参加する選手は、フラッグ、着替え、運動靴を持参するようお願いします。

中塚：本日の靴磨き講習会、テーピング講習会の報告をお願いします。

山中：本日巣鴨高校にて靴磨き講習会を行いました。講師には佐藤一朗さんをお招きしました。参加人数は 20 名。盛況のうちに終わることができました。

井上：本日のテーピング講習会は筑波大学附属高校で、13 時から 16 時過ぎまで、2 部制で行いました。第 1 部では選手を中心として行い 30 名が参加、第 2 部ではマネージャーを中心として行い 12 名が参加しました。第 1 部では足関節のテーピングを中心とした内容で、第 2 部ではそれに加えアイシング、水分補給についても取り扱いました。東京リゾート&スポーツの学生さん 6 名に講師をしていただきました。

予想していたよりも参加人数が少なかったため、アンダーラップとテープが余っています。この2つをクラブで1つずつお持ち帰りください。

◆決算案・予算案の報告

中塚：では次に決算報告をお願いします。

伊藤：お手元に資料として「2012年度各費用支払い状況」の資料があると思います。この資料の通り、全クラブ支払いを終えており、未納クラブはありません。

これをもとにもう1つの資料「2012年度DUOリーグ決算書(仮) 2/21現在」を作成しました。登録料収入では、加盟費は5,000円×28クラブ、個人登録費は800円×962人となっています。事業収入は前期リーグ参加費は20,000円×37チーム、後期リーグ参加費は20,000円×38チームとなっています。広告収入で20,000円、審判講習会会費は200,545円、普通預金利息で430円の収入がありました。今年度の収入の合計は2,630,575円で、前年度の繰越金が2,290,219円なので収入合計は4,920,794円です。

次は支出についてです。まずは事業費について、前期DUOリーグ運営費として295,000円、後期DUOリーグ運営費353,430円です。審判服について、今回優秀審判が3名おりましたので、38,430円です。各種手当についてですが、まだ確定していないので目安として10,500円と記載しました。この会議後、どなたがどの会議に参加されたのかを今週中にご報告ください。最後に地区トップリーグの分担金が10,000円です。

管理費について、プログラム代750,120円、事務局運営費200,420円、保険料225,420円、サロン2002広告料30,420円、各種会議費138,000円、ケニヤイベント商品送料3,580円、ケニヤイベント支援金30,420円、最後に梶山先生がお亡くなりになられたので、花代として14,385円です。

2012年度の支出の合計は2,306,615円で、収支差額は2,614,179円となり、この金額が来年度への繰越金となります。

2012年度の会場費、審判費を用意してありますので、会議終了後にお受け取りください。

佐藤：続いて「リサイクルプロジェクト請求書」についてです。まず収入については0円です。

支出についてです。昨年と異なることは、靴磨き講習会への参加が多かったため、1人当たりの単価がかなり安くなりました。また記念品(副賞)を、今年度は多く作成しました。1つのリーグでも得点王が複数出たり、優秀審判賞の受賞者が複数出たためです。昨年度、今年度をみると、リサイクルプロジェクトは年間で、13万円前後で収まるようです。

中塚：今年度までの繰越金が約230万円、来年度への繰越金が260万円ということで、今年度のみで見ただけで、約30万円が繰り越されているわけですね。経理担当が最後まで苦勞していたのは各クラブからの加盟費、参加費、個人登録費の振り込みがなか為されなかったからです。

次年度どのようにするのかという試算を、事務局次長三ツ矢さんにつくってもらいました。

三ツ矢：2010年度と2011年度の決算書を参考に作成しました。まず案1についてですが、これまでと異なるところは、個人登録費をプログラム代と改め、金額も800円から500円に引き下げられています。またクラブ加盟費を8,000円とし、チーム参加費を15,000円として計算しました。案2では、案1のクラブ加盟費を5,000円、チーム参加費を17,000円として計算したものです。

中塚：これまでは、しっかりしたプログラムを作成して行うリーグ戦は、前期・後期両方で実施していましたが、来年度からは前期のみとなります。また、次年度からDUOリーグ保険にも入らないことになりましたのでその部分もなくなり、個人登録費を改めプログラム代としました。こうした

場合、800冊出るのか、500円もかかるのかというところが、この後の議論になると思います。

では第6回 DUO リーグ将来構想委員会の報告についてです。これが今からの議論のたたき台となります。来年度の前期事業の見通しについて話しましょう。

議題Ⅱ．DUO リーグの事業－2013年度の事業の全体像と準備

1. 前期リーグ

◆東京都におけるリーグ構造の方向性と 2013年度前期 DUO リーグ

玉生：来年度の前期リーグは基本的に、例年通りに進めていきたいと考えています。しかし2014年度の地区トップリーグへ昇格するチームについては、来年度から前期リーグで決定します。

ここで T リーグについてです。2013年度は今まで通り T1、T2、T3 の体制で実施しますが、2014年度から、T1、T2 は 10 チーム構成のホーム&アウェイ形式で実施していきます。また T3 と 2014年度から新設される T4 は、1 リーグ 10 チームの 2 リーグ制で実施することが決定しています。T リーグ全体の参加チーム数が 2014年度から増加します。

このことにより、地区トップリーグから最大 10 チームを昇格させることになります。地区トップリーグは 2014年度からイーストとウェストに分け、それぞれ 1 リーグ 8 チーム構成の 2 リーグ体制で実施する予定です。

地区トップリーグから最大で T リーグへ 10 チームを昇格させるにあたり、2013年度から 2014年度のみ、各地区リーグから 2 チームずつ昇格させようと思います。DUO リーグにおいても、2013年度の結果で、2014年度の地区トップリーグへは 2 チーム昇格させます。

2013年度の DUO リーグは、資料の通りのリーグ編成で実施したいと考えています。特に 2 部リーグですが、都立足立西高校と、都立千早高校の新規参加が承認されれば、資料の通りのリーグ編成で行きたいと思います

中塚：ではまず DUO1 部リーグの話をもとめましょう。来年度についてのみ、地区トップリーグへ 2 チーム昇格させるということですが、昇格させる 2 チームの決定方法です。第 6 回将来構想委員会報告書にもありますが、昇格する 2 チームは、1 部順位決定戦後の 1 部リーグの総合優勝チームと、総合順位 2 位と 3 位のプレーオフの勝者としてしたいと思います。

試合数が増えることとなりますが、リーグ戦は 7 月いっぱい、順位決定戦は高校選手権地区予選前まで、地区トップリーグへの昇格を争うプレーオフは地区予選後に行うこととしたいと思います。

では次に 2 部リーグの話に戻したいと思います。新規参入チームについてです。従来 DUO リーグは、その理念に賛同して責任を果たすことができるクラブが加盟をし、加盟クラブが参加チームを出して、リーグ戦を実施してきました。三菱養和のように、DUO リーグに加盟はしているがリーグ戦に参加していないクラブもあります。DUO リーグの理念を広げること自体に意義があり、現在の形で続けていきたいと思いますが、一方で JFA・TFA 公認リーグと DUO リーグが繋がりました。つまり DUO リーグに参加しないと JFA や TFA 公認リーグに参加することができない状況となりました。

今回新たに都立足立西高校と都立千早高校がリーグ戦への参加意思を表明してくれましたが、この 2 つのクラブは、まだ DUO リーグに加盟していませんが、従来から JFA には加盟しています。よって JFA 公認リーグに参加する資格があります。ここでさらに、DUO リーグに加盟しないとリーグ戦には参加できないとすることは、FA の立場からすると難しい状況となりました。こうした状況下で、改めて高体連第 2 地区に加盟しているが DUO リーグには参加していなかったクラブに声をかけ、この両校が参加の意思表示をした次第です。

栗山：都立足立西高校は部員が少なく、昨年度は人数の関係で参加することが困難でした。しかしようやく部員もそろい、今年度から参加できる状態となりました。私も2地区出身でDUOリーグにも参加していた経験もあります。監督となった今でも選手たちに少しでも良い環境をつくりたいと思い、参加表明をしました。よろしくお願いします。

日高：都立千早高校も部員数が少なく、強いと言えるチームではないですが、生徒が自分達から参加していろいろなチームと戦いたいと言ってきました。私自身はサッカーの経験はありませんが、様々な勉強ができればと思っています。よろしくお願いします。

中塚：加盟すかないかはともかく、都立足立西高校と都立千早高校は参加の意思があります。この2つのチームを来年度から参加させることで承認していいですか。

→、都立足立西高校と都立千早高校は参加を承認

中塚：更に本郷から提案があるということです。

都丸：詳しくは後ほど岩野からあると思いますが、新規に2チーム出したいと思います。1つは本郷⊙というチームで、高校生のチームです。もう1つはG本郷というチームで、本郷高校サッカー部のOBのチームです。

中塚：概略はすでにメーリングリストにおいて岩野さんが説明しておりますのでご存知かと思います。FC西巣鴨03の例もあります。DUOリーグもそういうところを受け入れる土壌をもっているのです、本郷のからご提案のOBチームを受け入れたいと思います。

→G本郷の参加を承認

中塚：では2部リーグの編成の話に戻ります。あらかじめ提示されていた資料にある2部リーグ編成以外の案がなければ、この資料に沿って2013年度前期を実施したいと思いますがいかがですか。

→承認

◆DUOリーグのメンバーシップについて

中塚：次にDUOリーグのメンバーシップの話をしたしたいと思います。将来構想委員会報告の「補足資料・チェアマンからの問題提起」をご覧ください。

「DUOリーグの理念—目指すところは何か」については次の通りです。

- ・「DUOリーグの理念」は普遍であり不変。この理念に賛同して共に歩む者がメンバー。
- ・「DUOリーグの理念」を共有する仲間を増やすことがリーグとしての使命であり、仲間を増やすために理念をゆがめてはならない。

その上で、「誰がメンバーとなるのか」ということです。メンバーの権利と義務は、

- 1) リーグ戦への参加資格が得られる
- 2) リーグ戦以外への諸事業への参加資格が得られる。
- 3) 情報が得られる
- 4) リーグ運営の担い手となることができる
- 5) 加盟費をさめる

ということです。

しかし来年度については、「個人会員」の考え方は採用できないと思います。従来「個人会員」としての入会の見返りとして保険への加入や、プログラムが2冊手に入ることがありましたが、2013年度は状況が異なるので、個人登録費ではなくプログラム代を冊数に応じて支払うこととなります。

リーグ戦の参加費についてですが、事務局からは17,000円や15,000円の案がありましたが、これはプログラム代を500円×800人の前提で考えられたものです。しかしこれは厳しいと思います。前期リーグ参加費は従来通り1チーム20,000円、加盟費は1クラブあたり年5,000円としたいと思います。ただし加盟費はDUOリーグに加盟するクラブのみ支払います。

橋本：これまでと同じということですね。

中塚：基本的には同じですが、これまで個人登録費となっていたものがプログラム代となり、金額が変わります。現時点では500円としていますが、もう少し安くなると思います。

→加盟費 5,000 円、参加費 20,000 円で承認

◆DUO リーグ規約と実施要項について

中塚：次に「DUO リーグ規約（第2案）」についてです。DUO リーグのメンバーになるにあたり、共有したいものの案です。案なので、もう少し時間をかけて整えていきたいと思います。完成したものは、年度途中で提示します。

いまここで議論したいのは「DUO リーグ規約（第2案）」を実施要綱の形で落とし込んだ「第35回 DUO リーグ実施要綱」についてです。基本的には従来と同じです。DUO リーグには加盟しないが、前期リーグ戦に参加することは可能です。ただし、リーグ戦に参加するからには果たすべき役割と守るべきルールがあります。

参加チームの資格は次のとおりです。

- 1) 選手…原則として18歳以下の選手で構成される。但し、2部リーグにおいては特別枠選手（＝19歳以上）が3名まで出場できる。
- 2) 審判…指定された試合で修身・副審が出せる（18歳以下の有資格者が望ましい）
- 3) 付添…試合の際に大人（20歳以上）が付き添い、事故があった場合には各チームで対応できる
- 4) グラウンド…試合会場を1節だけ主催できる（確保でき、かつ主催できることが望ましいが、お互いのやりくりで主催だけでも可）

注) FC西巣鴨03については「1) 選手」の条項を適応しない

「4) グラウンド」については将来構想委員会でも時間をかけて議論しました。勝ち点はく奪というシビアな話も出ました。しかし東京の都心部でリーグ戦を行って行くにはルール化にはなじまないのではないか、それぞれの心がけで努力で達成してもらうしかないと判断しました。例えばグラウンドを所有しているチームと話をし、グラウンドを借りて主催をさせてもらうのもあります。また「注）」については、来季はG本郷にも適応したいと思います。

DUO リーグへの登録手続きを確認します。

1) プレーヤー登録

登録チーム登録票を3月9日までに提出する。

注) にありますが、未登録でも（チーム登録表に記載されていなくても、JFA登録選手は）試合の出場は認められます。

2) 移籍

プレーヤーは登録されたチームからのみ出場することができる。

注) 今期においても従来通り、「同じ節（同日も含む）」に複数チームから同時に出場するプレーヤー

がないように、メンバー構成は各クラブが責任をもって行う。ただし 40 分（1 部）または 35 分（2 部）以内の出場は認められる」とする。

補足）上位リーグの試合に常時出蔵しているプレイヤーの出場は原則として認めない。

3) 試合出場

試合開始 30 分前までに先発とサブを明記したメンバー表を、相手チームと本部に提出する。メンバー表はプログラムのコピーを用いる。

来期の実施要綱（案）はその他御覧の通りになります。この様な形でよろしくをお願いします。

資料にある「2013 年度 DUO リーグ加盟票（案）」ですが、「DUO リーグ規約（第 2 案）」がしっかりしたものとなったら、加盟票をクラブごとにこのような形で提出してもらいます。「保険証（コピー）添付欄」とありますが、DUO リーグ保険をやめますので、リーグ戦での事故についてのどの保険でケアしてもらうのかを、加盟に当たって把握したいので加えました。

「2013 年度前期 DUO リーグ基礎調査」ですが、これ毎年実施しているものです。加盟するしないに関わらず、参加するチームは全員提出します。

2. 後期リーグ

岩野：将来構想委員会で提案したのは、フェスティバル形式の 11 人制サッカーと、8 人制のソサイチ形式の 2 つです。チーム内でハーフコート 8 人制サッカーは行うと思いますが、他チームと実施することで新鮮なものになるのではないかと思います。

フェスティバル形式のものは、1 リーグ 4 チーム程度で 1 次リーグを行い、その結果に基づいて決勝トーナメントを行うものである。1 次リーグで 3 日間、決勝トーナメントで 3 日間の計 6 日間で行うことができます。11 人制サッカーの場合は、この形を提案しました。

8 人制のソサイチ形式ですが、都内の学校の場合、サッカー場が 1 面取れる学校は限られています。しかし半面であればグラウンドを用意できる学校も増えます。サッカー場を 1 面取れるチームであればハーフコートを 2 面とることができ、試合数を多くこなすことができます。短時間の試合を繰り返し、ハーフコート 2 面で実施した場合のシミュレーションによると、1 日 4、5 時間で 1 リーグ 8 チームの試合を消化することができます。これを 4 日間行い、5 日目で各日にちの 1 位、2 位が集まり、決勝リーグを行うことも考えています。

実施は 9 月からなので、この他の案も頂きたいです。

中塚：城西高校の瀧本君どうですか。

瀧本：私は 8 人制サッカーはありだと思います。11 人制サッカーだけだと、11 人制の戦い方しかわからない。8 人制サッカーを経験することでいろんなサッカーのやり方も学べ、サッカーの幅が広がると思います。

中塚：中大高の加藤さんいかがですか。前回の会議では 11 人制の方が生徒は喜ぶのでは、とおっしゃっていましたが。

加藤：私としては 11 人制の形で勝敗をつけることで高校生は達成感を感じるのではないかと思います。

中塚：筑波大附の香取君どうですか。

香取：私はどちらかといえば 11 人制の方がいいです。しかし 8 人制など変えた状況でやるのも面白く感じます。

宮坂：私自身はどちらでもいいです。8人制のメリットとして、会場を提供できるチームが増えると思います。また、いまの小学生サッカーは8人制です。あと数年したら8人制サッカーを経験した子どもたちが高校生になります。今の高校生には違和感があるかもしれませんが、今後8人制サッカーが当たり前と思う高校生が出てきます。

また、8人制であれば簡単にゴール前に行く事ができるので、ゴール前の攻防の練習になり、講習の切り替えも激しいので、普段味わえないトレーニング効果も期待できます。

中塚：まだ時間がありますので、引き続き議論を継続していきましょう。いずれにしても、後期完結型でチャンピオンが決定する形を想定しています。

3. その他の事業（リーグ戦を支える事業／豊かなスポーツ観を育む事業など）

中塚：審判講習会やテーピング講習会などのリーグ戦を支える事業は今後も続けていきたいと思えます。それに加えてリサイクルプロジェクトについてです。震災以降は当初考えていたような活動ができず、靴磨き講習会に特化した形となっていました。そのあたりについて、今後の展望等がありましたらお願いします。

土谷：震災の影響もありましたが、佐藤さんが仕事先を変えたこともあり、余裕が持てない状況でした。しかしまた職場を変えるということで、具体的な今後の予定はまだありませんが、4月以降からは動きやすくなると思います。

いま DUO リーグでは「リサイクルプロジェクト」という名称で動いていますが、以前使われていた「スキンプロジェクト」の名称で動いているアート活動は、全国各地で展開しています。今年も香川県中心行われる瀬戸内国際芸術祭にも呼ばれています。7月20日ごろから9月1日まで高松港にスキンプロジェクトのブースができます。そこでもサンダルを売ったり、グッズをつくったりするワークショップを展開していこうと思います。

トロフィーの企画は引き続きよろしくお願いします。

佐藤：先ほど話にもありましたが、震災直前に仕事を変えたこともあり、なかなか活動することができませんでした。4月からは余裕をもって活動できると思います。他の提案があれば、受けていきたいと思うのでよろしくお願いします。

中塚：リーグ戦だけやればいいのかという話もありましたが、そういう考えのクラブは DUO リーグに加盟してもらわなくてかまいません。リーグ戦以外のこういった活動も含め、社会と接点を持ちながらよりよいものを育てていこうという人たちで活動し、DUO リーグの理念の実現を目指したいと思えます。

資料の一番後ろにケニアでのイベントのポスターがあります。

三ツ矢：先日ケニアで行われたイベントで、DUO リーグとサロン 2002 から支援金をいただきました。ありがとうございました。ポスターの右下に DUO リーグとサロン 2002 のロゴマークが入っています。

イベントでのサッカーの試合では、巣鴨高校から頂いたユニフォームが実際に使用され、巣鴨高校サッカー部のサッカーボールが景品として出されました。そのサッカーボールが今、1つの町クラブおこしの助けとなり、現在ケニアで使用されています。

今後も支援物資等あればお受けしていますのでよろしくお願いします。

議題Ⅲ. DUO リーグの会員と組織

中塚：会員と組織については先ほど「議題Ⅱ. DUO リーグの事業－2013年度の事業の全体像と準備 1. 前期リーグ」でお話しました。

ここで皆さんに伺いたいのは、DUO リーグの組織のことで、リーグ戦事業にともなう仕事については、リーグに加盟するしないに関わらず、参加チームが応分に担います。これに対して「DUO リーグ組織図」に示される仕事はリーグ自体の運営に関わる部分で、これまでは事業部門、企画部門、管理部門の3部門に分かれ、各部長のもとで担当する業務にあたることになっていました。

しかし仕事の引き継ぎがうまくいかなかったり、担当者の得手不得手があるなど、機能しないところがありました。よって、組織図と担い手をもう1度整理し直そうと思います。

従来組織図の点線で囲まれた部分を理事会としていましたが、あまり機能しませんでした。

その代りこの1年間は、将来構想委員会でさまざまな問題についての議論を進めてきました。今後とも将来構想委員会のような議論の場を設けていきたいと思いますが、毎回その場に集まったメンバーだけで話し合うのでは継続性がありません。そこで、ある程度固定したメンバーで理事会を組織し、DUO リーグの将来像について引き続き話し合いたいと思います。

理事会の構成メンバーとして想定しているのは、チェアマン、事業部長、企画部長、管理部長、事務局長、および、上位リーグ関係者、地区トップリーグ関係者、高体連第2地区責任者です。これらのメンバーで、これまで将来構想委員会で行ってきた話し合いをしていきたいと考えています。具体的な人選はまだ途中ですが、このような形で行きたいと考えています。また、理事会が組織されるまでは、従来将来構想委員会が代行する形でいきたいと思います。

岩野：加盟するクラブとしないクラブが決まり、組織図が決まったとしても、新たに設けられる理事会には意見のある人が参加できるように、開催日時等を全体にアナウンスすべきだと思います。

中塚：そうですね。このDUO リーグ会議自体、オブザーバーの枠を設けています。議決権はないけど発言権はみなが持つことにしています。新設する理事会も同様に、誰もが出席して意見を述べることができるようにしたいですね。ただし「会議費」をどの範囲まで支出するかという問題はあります。「オブザーバーの会議費は支出しない」のが原則でしょうね。

各リーグで役割分担する際に、理事会メンバーはできるだけ外してください。理事の負担が大きくなりすぎます。

資料の「DEUO リーグスローガン (1996～2012)」をご覧ください。2012年度は「“温度差”をなくそう」としました。プログラムにも掲載したので全てのDUO リーガーに周知されていたはずですが、将来構想委員会では“温度差”をなくすことを念頭に置きつつ議論していましたが、逆に“温度差”があることを確認できた感もあります。DUO リーグへ加盟するかどうかを改めて問うことにしたのは、“温度差”がはっきりみえてきたことも背景にあります。

次年度のスローガンは、追って連絡します。

議題Ⅳ. 今後の進め方

中塚：最後に今後の進め方ですが、特に前期リーグへ向けての準備を確認したいと思います。プログラムについてお願いします。

室橋：例年、前期プログラムは4月上旬発行なので、1年生の名前は載りません。1年生が加入することを見越して、例年は1年生の予想人数を加えた部数を各クラブに申告していただき配布しています。しかし今回から少しやり方が変わります。どの範囲に配布するのかを話し合ってください。

チームプロフィールの提出期限は3月9日にしたいと思います。

中塚:このようなしっかりしたパンフレットは2013年度前期リーグの1冊しか発行しないつもりです。そうすると、1年生の名前が残らないまま1年間過ぎてしまいます。何かアイデアはありますか。

永井:名前が載らないのは寂しいですが、仕方ないのかなと思います。代案は思いつかないです。

早川:ホームページを活用できれば、1年生のデータをアップしてみんなが見られるようにする方法もあります。

中塚:ホームページを活用する話は以前からありました。ただ個人情報は載せたくないですね。

亀井:プログラム代は500円で決定ですか?

中塚:決定ではありません。プログラムの発行部数が決まらないと単価がわかりません。価格の見通しはプログラム担当でお願いします。各クラブが何冊必要なのかは早めに知りたいですよ。

室橋:はい。

中塚:DUOリーグに加盟しているけど、チームを出していない(上位リーグに複数チーム出している)三菱養和には、各回5冊ずつ配布しています。加盟クラブには5冊配布するようにしています。2013年度は、参加費20,000円の中にプログラム5冊の代金を含めることでどうでしょう。加盟しないクラブにも、5冊は配布するようにしましょう。

室橋:しかし全てのクラブが5冊でいいとなってしまうと、単価がかなり上がってしまいます。登録する選手数だけ発行できれば、単価も大きく上がらないと思います。できるだけプログラムの購入をお願いします。

中塚:チームプロフィールと必要プログラム数の報告は3月9日までとしましょう。

→チームプロフィール、必要プログラム数の報告:3月9日まで

中塚:基礎調査はどうしますか。

三ツ矢:またMLに流します。新たに参加する都立足立西高校、都立千早高校については、こちらで個別に連絡を取り合います。3月9日までに提出をお願いします。

→基礎調査の提出:3月9日まで

岩野:加盟していないチームの試合結果報告はどうしますか。MLに登録されないとなると試合結果が流れないことになってしまいます。

中塚:メーリングリストを、試合結果報告用と、加盟クラブの情報共有用の2つにできないですか。

三ツ矢:本多さんに相談してみます。

議題Ⅳ. その他

◆オブザーバーより

中塚：お願いします。本日オブザーバーでアクオレの河野さんがいらっしゃっています。自己紹介をお願いしますか。

河野：アクオレの河野です。アクオレはサッカーのオリジナルユニフォームを作成するメーカーです。昨年の夏に立ち上げ、私は関東方面の営業を担当し、本日中塚先生と縁がありまして参加いたしました。これからまた顔出すこともあると思いますので、よろしくお願いします。

◆DUO リーグの理念とあゆみーJFA 公認 B 級講習会で紹介していること

中塚：大きな節目でもありますので、ここで改めて DUO リーグのあゆみを簡単に振り返っておきたいと思います。このスライドは、JFA 公認 B 級指導者養成講習会の共通科目「スポーツの社会科学」で全国の指導者に紹介しているもので、DUO リーグの理念と実際、および加盟クラブへの影響として筑波大学附属高校サッカー部の例を取り上げています。いずれの改革も、日本のスポーツ界が抱える課題をどう解決していくかが出発点となっています。

筑波大附高蹴球部は、現在、サッカー部、フットサル部、女子蹴球部の3部門から構成されています。一つのクラブに3つのチームがある形です。各部門はそれぞれのレベルやニーズに応じて活動をしていますが、夏合宿は3部門合同で実施しますし、年2回の昼休みフットサル大会を企画・運営します。また卒業生との合同行事も多く、東日本大震災のチャリティーマッチは毎年春に実施しています。昨年は FC 西巣鴨 03 と協力して宮城県南三陸町立歌津中学校をお招きしました。今年も7月の海の日前後で計画中です。このように、競技志向だけではない、さまざまなニーズの受け皿になっているのが蹴球部です。

サッカー部もフットサル部も参加する U-18 フットサル大会は、全国に先駆けて東京都で 2001 年度から始まりましたが、少しずつ整備が進み、今年度からは全国大会が開かれます。東京都代表の国学院久我山（3年生のサッカー部員）が神奈川県代表の武相高校（フットサル部）と関東代表決定戦をここ筑波大附でやりました。結果武相高校が関東代表として決定しました。

さて、DUO リーグができるまではノックアウト方式の大会しかなく、1回戦で負け続けると年3回しか公式戦が経験できないチームもありました。しかも1クラブで1チームのみですから、補欠だらけです。このような問題を解決すべく、1996年度から DUO リーグ始まりました。いまでは JFA の指導のもと、全国各地にユースリーグが展開している、その先駆けが DUO リーグです。

DUO リーグ内のことでいうと、理念は徐々に実現されつつありますが、学校体育とのひずみが見えてきたり、組織が大きくなって互いの顔がみえにくくなってきました。立ち上げのころから比べると“遊び心”が失われつつあるのが残念です。そんなとき、以前の持ち回りトロフィーがなくなり、スキンプロジェクト（現リサイクルプロジェクト）がはじまり、アートとの融合が始まりました。

DUO リーグのロゴができ、「トロフィーがない」プロジェクトに取り組み、靴磨き講習会がはじまりました。できあがった「履けなくなった靴でできた履けるトロフィー」は、1部リーグ優勝チームに授与され、名前が刻まれます。1部優勝の都立江北高校はアウォーズに間に合いませんでしたが、いまここに清水君がいますので、改めて表彰したいと思います。

→ 表彰

DUO リーグがこれまで積み上げてきたものは、今後も加盟クラブで実施していきます。今後の DUO リーグへの関わりを、今一度各クラブで考えてもらいたいです。

◆高校生オブザーバーより

清水（都江北）：チームの優勝と、私の MVP を表彰していただけてうれしいです。本日、初めて会議に参加しました。楽しく試合ができるのはこのように裏で頑張ってもらっている方々がいるからだと感じました。ありがとうございます。

西嶋（筑波大附）：初めて会議に参加しましたが、色々と勉強になりました。内容ではお金の話などあって難しかったですが、いろんな方々に支えられて DUO リーグが成り立っていることがわかり、恵まれた環境にいることを実感しました。

香取（筑波大附）：今回私も初めて会議に参加しました。裏で頑張ってもらって準備していただいているおかげで多くの試合ができて感謝しております。来年度は、DUO リーグを盛り上げてよりレベルの高いリーグにしていきたいです。ありがとうございました。

間瀬（筑波大附）：私は高校生になってからサッカーを始めましたが、約 1 年間で多くの試合を経験できました。高校生になってからサッカーを始める人も多いと思うので、そういう人たちにとっても DUO リーグは大切な場であると感じました。これからも続けていってほしいと思います。これからもよろしくお願いします。

金山（筑波大附）：DUO リーグ会議に参加したのは今回で 3 回目になります。毎回内容が充実していて、私も回を重ねるごとに内容も理解できるようになってきました。マネージャーも DUO リーグに参加していけるよう取り組んでいきたいと思っています。

鈴木（筑波大附）：私は、会議への参加は 2 回目になります。前回 1 回目は会議で話し合われている内容が分からないところが多くありましたが、今回は前回よりも理解が進み、リーグの仕組みなどわかってきました。マネージャーの仕事もがんばろうと思いました。

滝本（城西）：会議に参加したのは初めてでした。お金に関することはよくわかりませんでした。裏で選手たちのために動いてくれている方々がいるおかげで試合ができていることを実感しました。今後の 1 試合 1 試合をより大切に戦っていきたいです、ありがとうございました。

市川（城西）：私も今回、初めての会議への参加です。先生方が選手たちがプレーしている裏でこのように動いてくれているおかげで試合ができると実感できました。ありがとうございました。

◆確認 1：次年度の昇格にあたって

玉生：1 つ確認です、現在所属しているリーグにおいて昇格権を得た場合に、昇格権を行使しないチームはありますか。G 本郷は今年度のみ参加で、FC 西巣鴨 03 については以前から昇格しない旨は受けています。その他のチームは昇格権を得た場合、昇格するというので話を進めます。

例えば来期において、2 部 U リーグで G 本郷が優勝し、2 部 O リーグで FC 西巣鴨 03 が優勝した場合、昇格する 2 チームのうちもう 1 チームをどのように決めるかを今、決定したいです。

1 つの方法として、2 部各リーグの 2 位で、三つ巴戦で決定することが考えられます。

岩野：例えば FC 西巣鴨 03 が 2 部 O リーグで優勝し、G 本郷が 2 部 U リーグで優勝できなかった場合、2 部 D、U リーグの 1 位は昇格権が与えられるが、2 部 O リーグの 2 位には昇格権は与えられないということになってしまいます。

リーグ戦が始まる前から、昇格しないことを宣言しているチームがあるのであれば、昇格に関わる

順位に組み込むべきではないと考えます。もし G 本郷や FC 西巣鴨 03 が優勝したとしても、昇格権が与えられるのはそのリーグのそれぞれの 2 位のチームであるべきなのではないでしょうか。つまり、2 部 D、U、O リーグで昇格権を獲得したチームで持つチームで三つ巴戦を行い、昇格チームを決定する方法がいいと思います。

玉生：わかりました。今までこのようなところをはっきりさせていなかったなので、話し合いたいと思いました。

中塚：ではその話は将来構想委員会に一任させてもらう形にします。
ではサッカーボールの配布を行います。

◆事務局より

三ツ矢：筑波大附、都江北、都文京、都荒川商業、淑徳巣鴨、京華、豊島学院、都足立、都小石川、都豊島、獨協、本郷、日大豊山、FC 西巣鴨 03、文中選の 15 クラブは、お帰りの際、サッカーボールをお持ち帰りください。

2 つ事務局からご連絡です。1 つ目は、事務局長の岸がケニアから 9 月、10 月あたりに日本に戻ってきます。そこから徐々に事務局の業務を岸の方にうつし、私は事務局次長から退こうと思います。もう 1 つは、僕が 4 月から非常勤講師として公立中学校で勤務することが決まっています。今までのように、試合結果が来なかったり、得点ランキングなどの集計が来なかったりした場合、フォローすることが難しくなると思います。高校生がせっかく見ているホームページも更新できなくなることもつながります。各役割の仕事をきっちりしていただくようお願いします。

中塚：2 部リーグの日程会議の日にちを決めましょう。

→2 部リーグ日程会議

日時：3 月 6 日（水）18:00～

場所：筑波大附

議事録作成：三ツ矢道弘
確認・一部修正：中塚義実